

《各県コーナー》

長野県北部地震などの災害復旧事業について

.....長野県建設部河川課

1. はじめに

長野県は、本州の中央部に位置し、東西約120km、南北約212kmと南北に長く、総面積は、13,562km²で、北海道、岩手県、福島県について、全国第4位の面積を有する県です。

県内には、糸魚川～静岡構造線、中央構造線が走っており、糸魚川～静岡構造線の東側はフォッサマグナ地帯になり新第三紀層が広く分布しています。

気象の状況は、南部地方は太平洋側、北部地方は日本海側、内陸地方は中央高地式気候で、気温は寒暖の差が大きくなっています。降雨分布も地域差が大きく、西部から南部にかけては、年降水量が2,000mmに達しますが、東北部は1,000mm前後の小雨地帯となっています。

災害の発生状況ですが、平成に入ってから、

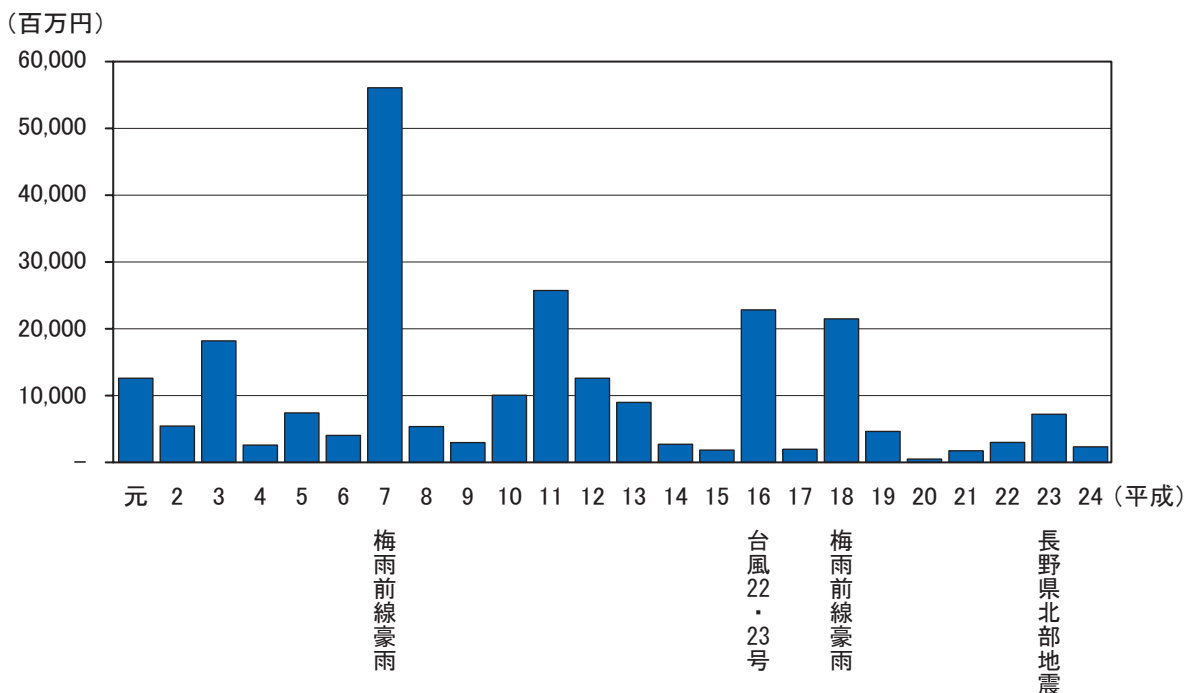
平成7年の梅雨前線豪雨、平成16年の台風22・23号、平成18年の梅雨前線豪雨など大きな災害が発生していますが、最近では、梅雨前線、台風などの降雨による災害が少なく、ゲリラ豪雨による局所的な災害が多くなっています。

2. 23年災長野県北部地震の概要

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震が発生した翌日の12日午前3時59分頃、長野県の北部に位置する栄村で震度6強、野沢温泉村で震度5弱の地震が発生しました。

地震発生直後から、現地事務所職員が、パトロールを実施し被害状況の把握に努めましたが、スノーシェットの倒壊、橋梁の桁の移動による遊間異常、路面のひび割れ等による段差などで通行止めとなったうえ、積雪が2mほどあった

長野県（市町村含む）の査定決定額の状況



《各県コーナー》



(国)117号 栄村 栄大橋の被災状況
橋桁が移動し遊間が広がっている



(一)箕作飯山線 栄村
清水河原スノーシェットの被災状況



(国)117号 栄村の道路面の被災状況



(一)箕作飯山線 栄村
清水河原スノーシェットの復旧状況

平成23年災長野県北部地震の査定決定状況

単位：千円

市町村名	工種区分	河 川		急傾斜地崩壊防止施設		道 路		橋 梁		査定決定額計	
		箇所	金 額	箇所	金 額	箇所	金 額	箇所	金 額	箇所	金 額
飯 山 市	県 工 事	1	4,828			5	210,168	1	35,842	7	250,838
	市 工 事					5	22,836			5	22,836
	計	1	4,828			10	233,004	1	35,842	12	273,674
野沢温泉村	県 工 事					24	366,855	1	5,268	25	372,123
	村 工 事					3	10,258			3	10,258
	計					27	377,113	1	5,268	28	382,381
栄 村	県 工 事	2	91,249	1	93,813	40	1,866,970	7	479,916	50	2,531,948
	村 工 事					98	1,145,540	3	427,360	101	1,572,900
	計	2	91,249	1	93,813	138	3,012,510	10	907,276	151	4,104,848
計	県 工 事	3	96,077	1	93,813	69	2,443,993	9	521,026	82	3,154,909
	市村工事					106	1,178,634	3	427,360	109	1,605,994
	計	3	96,077	1	93,813	175	3,622,627	12	948,386	191	4,760,903

《各県コーナー》

ため、なかなか被害の状況を把握することが出来ませんでした。

このため災害査定は、雪解けを待って、被害の状況が把握できたところから実施することとし、6月中旬から、8月上旬までの計4週、延べ8班に渡る査定を申請しました。

被災原因が地震ということもあり、橋梁などの構造物の被災が多く、防災課に、県・村含め23箇所の事前打合せを行いました。

査定の結果、県工事82箇所、31億5千万円余、市村工事109箇所、16億円余の採択を受けました。

24年度末、国道などの幹線道路や生活道路の復旧は全て完了したものの、豪雪地帯であるため、冬期工事困難な一部区間は、来年度の完了予定となっています。今後とも早期復旧に努めてまいります。

3. 24年災の状況について

平成24年災は、2～4月の低温による凍上災から始まりました。本県では18年以來、6年ぶりの凍上災であり、防災課から災害査定官をアドバイザーに招き、査定前に凍上災の現地講習会を開催致しました。査定に向けてのポイント等の指導を頂き、有益な講習会となりました。

査定の結果、77箇所、15億9千万円余の採択となり、現在、これらの復旧に努めているところです。

本年の災害異常気象数は、凍上災を含めて16事象がありましたが、ゲリラ豪雨、地すべり災など局所的な被災であり、査定決定としましては、箇所数144箇所・査定決定額22億7千万円余と、ここ数年と同様に災害が少ない年となりました。



凍上災による被災状況



凍上災の現地講習会

4. 長野県防災サポートアドバイザー制度について

県、市町村とも行政改革が進み、限られた職員による災害対応を余儀なくされており、大規模災害が発生した場合、どのように初動態勢を整えられるかが危惧されているところです。

また、近年、いわゆる団塊の世代を含め、これまで土木行政を支えてきた多くの土木技術者が退職しており、若い世代への技術継承が重要な課題となっています。

こうしたことを踏まえ、行政OBなどによる災害対応への支援を目的として「長野県防災サポートアドバイザー協会」が設立されました。

長野県防災サポートアドバイザー協会は、大雨や地震などの異常な天然現象により公共土木施設が被災した際に、県や市町村からの要請に基づき「防災サポートアドバイザー」を現地に派遣し、被災状況を調べ災害復旧工法の助言をするなどの支援をボランティアで行う団体です。平成24年6



防災サポートアドバイザー現地調査

《各県コーナー》

月15日に同協会と協会事務局となる（公財）長野県建設技術センターと長野県の3者で公共土木施設災害復旧事業支援に関する協定が締結され、さっそく7月の諏訪地方のゲリラ豪雨の現地において、復旧工法の助言などの支援を受けました。

まだ、協会が発足して間もないこともありますが、今後は、事例を重ねながら制度の有効性等を高め、より迅速で円滑な災害復旧事業に寄与するものと期待されます。

5. おわりに

近年は、従前のような台風、梅雨前線豪雨など

の災害が少なく、ゲリラ豪雨などの局所的な降雨、地震災、凍上災など特殊な災害が多くなっています。これらの災害については、事例等も少なく、国土交通省防災課をはじめとして関係機関の皆様の御指導を頂きながら事業を進めているところです。この場をかり、お礼を申し上げます。

災害は、いつ発生するかわかりません。常日頃から災害に対する心構えを持ち、災害が発生した際には、早期の復旧を目指し、県民が安心して暮らしていける基盤を整備できるよう職員一同頑張っています。

図書ご案内

平成24年5月発行

実務上手放せない本書をぜひお手元に一冊！

災害復旧実務講義集（平成24年度版）

A4判 400頁 頒価4,000円（消費税込み） 送料協会負担

内容案内

- ・最近の自然災害と防災上の課題と対応について
- ・災害復旧における環境への取組について
- ・災害採択の基本原則について
- ・災害復旧事業の技術上の実務について
——設計積算と工事実施——
- ・災害査定留意点について
- ・改良復旧事業の取扱いと事業計画策定について
- ・災害事務の取扱いについて
- ・平成23年7月新潟・福島豪雨に伴う改良復旧事業について
——新潟県土木部河川管理課——
- I 災害復旧制度の概要
 - II 災害報告
 - III 災害事務の管理
 - IV 国庫負担率の算定事務
 - V 災害復旧事務の予算
 - VI 改良復旧事業等に対する補助制度
 - VII 災害復旧事業費の精算と成功認定
- ・平成23年台風12号に伴う土砂災害等について
——奈良県土木部砂防課——
- ・東日本大震災に伴う仙台市下水道の復旧・復興に向けた取り組み
——仙台市建設局下水道計画課——

詳細については、(社)全国防災協会ホームページの出版図書案内をご参照下さい。